ヒエログリフから現代文字まで。アルフ

アルファベットの系統樹をみてみよう。

これまで見てきたように，アルファベット的要素をもつものとしては，前32世紀のヒエログリフが最古のものだ。しかし，シャンポリオンの解読で明らかにされたように，ヒエログリフは“純粋な”アルファベットではなかった。

その後，ダーネル教授の提唱するワディ・エル・ホル碑文のアルファベット，ガーディナーの提唱する原シナイ字などを経て，遅(おそ)くとも前11世紀には，「アレフ」，「ベト」といったフェニキア文字が登場したと考えられている

そして，遅くとも前6世紀にはラテン文字が生まれ，字数をふやしながら現在にいたっている。ここでは，こ

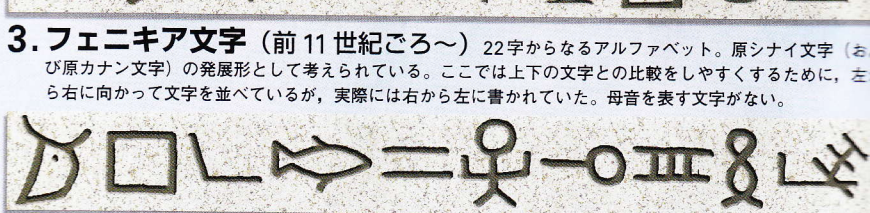
キリル文字（遅くとも10世紀～）
ギリシア文字からつくられ，現在でもロシアを中心に利用されている。基本は，46字からなるアルファベットだが，国によって文字数がことなる（ロシアは33字，ブルガリア30字など）。

6. ラテン文字から派生したアルファベット 現在の，主にヨーロッパで使われてるアルファベットには，基本のラテン文字26字のほかに地域ごとの文字が追加されている（右ページ下の参照）。ここでは，『言語学大辞典　世界文字辞典』を参考に書きだした。

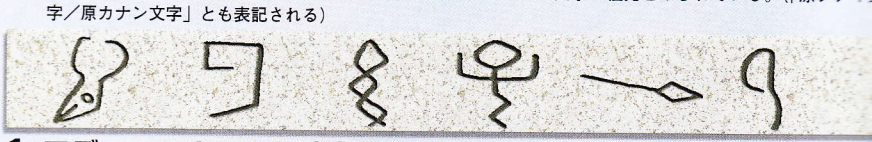
5. ラテン文字（前6世紀ごろ～）ギリシア文字からできたアルファベット。当初20字でスタートしたが，時代とともに26字にまで増加した。5世紀ごろから小文字がつくられた。現代でも使用されてい

4. ギリシア文字（前8世紀ごろ～）21～24字のアルファベット。文字数は時代や地域によってことなる。フェニキア文字からできたとされる。当初は右から左に書かれ（その場合文字の向きが左右反転する），次に「牛耕式」で書かれ，そして最終的には左から右に落ち着いた。8世紀ごろ小文字がつくられた。

3. フェニキア文字（前11世紀ごろ～）22字からなるアルファベット。原シナイ文字（および原カナン文字）の発展形として考えられている。ここでは上下の文字との比較をしやすくするために，左から右に向かって文字を並べているが，実際には右から左に書かれていた。母音を表す文字がない。



2. 原シナイ文字（前16世紀ごろ）27字からなるアルファベット。ヒエログリフやワディ・エル・ホル碑文の文字と類似した文字が多いのが特徴。フェニキア文字の祖先とみられている。（「原シナイ文字／原カナン文字」とも表記される）



1. ワディ・エル・ホル碑文の文字（前20世紀ごろ）現在14字が発見されているアルファベット。「最初のアルファベット」とダーネル教授は指摘している。

0. ヒエログリフ（前32世紀）シャンポリオン以降の研究によって，24字～30字（研究者によって多少数はことなる）のアルファベット的に使われる表音文字があることが知られている。ただし，ヒエログリフはアルファベットだけではなく，表語文字や音節文字も含まれるため，純粋なアルファベットではない。

ウガリトの楔形文字
（前14世紀半ば?）
30の楔形文字からなる。楔形文字を使用した言語は数多いが，ウガリトだけはこれをアルファベットとして使用していた。ほかのアルファベットとの関係は不明。